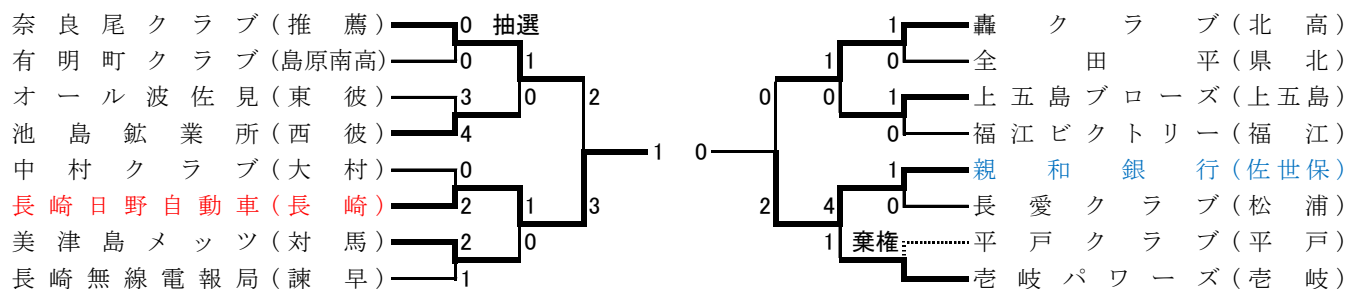


古豪・親和銀行と、新鋭・長崎日野の初の決勝対戦は日野が初V

第29回長崎県軟式野球選手権大会
 会期：昭和54年11月23日(金)～25日(日) 決勝戦：12月2日(日)
 会場：A・大橋球場 B・長崎商高球場 決勝戦：佐世保野球場



10月19日から開催予定が降雨により5週間順延して23日に開幕したが前夜からの雨でグラウンド状態も悪く大橋球場外で開会式のみを行ない、前年度優勝の奈良尾クラブの金丸裕主将が選手宣誓をした(右写真)。この大会より諫早・北高代表と、大村・東彼の代表が分離して2支部増え15支部代表+推薦(前年度優勝)の16チーム参加となった。24日は大橋球場で一回戦6試合と、長崎商高グラウンドで同1試合の計7試合を行い、奈良尾ク、池島鋳業所、長崎日野、美津島メッツ、轟クラブ、ブローズ、親和銀行、パワーズの各チームが、準々決勝へコマを進めた。なお奈良尾ク-有明クは抽選で、平戸ク-壱岐パワーズは平戸クの棄権でそれぞれ大会規定により決定した。
 (昭和54年11月25日付けの長崎新聞より抜粋)



両投手、譲らず "抽選決着、奈良尾勝つ"

【奈良尾】打安点

⑨川崎	2 0 0
④金崎	3 0 0
⑧森	2 0 0
①平田	3 0 0
②宮崎	3 0 0
⑥津田	3 0 0
③金丸	3 1 0
⑤本村	1 0 0
H金子	1 0 0
5浜山	0 0 0
⑦松竹	2 0 0
23 1 0	

【一回戦】=第1試合：大橋= 振球犠盗失残併

奈良尾クラブ	000 000 00	0	4	2	0	1	0	4	1
有明町クラブ	000 000 00	0	7	2	0	0	2	4	0

(延長8回・奈良尾の抽選勝ち)

【評】奈良尾の左腕平田は速球、有明の金子はカーブと、それぞれ持ち味を生かしたピッチング。延長8回の一死満塁制も両軍ともに得点なく抽選で奈良尾の二回戦進出が決まった。有明は初回、八回の好機を単純な強攻撃でつぶしたのが痛く、1安打の好投を示した金子に報えなかった。

【有明町】打安点

⑦吉田浩	2 0 0
①金子	2 0 0
⑤竹之内	3 1 0
⑨吉田朝	3 0 0
⑥松本	3 1 0
⑧吉田正	3 0 0
③高見	3 0 0
④長野	1 0 0
H4加藤	1 0 0
②中島	2 1 0
R酒井	0 0 0
23 3 0	

ともに逆転の応酬 池島6回に反撃、逃げ切る

【一回戦】=第2試合：大橋= 振球犠盗失残併

オール波佐見	001 200 0	3	7	2	0	2	2	4	0
池島鋳業所	002 002 X	4	2	4	1	1	4	5	1

【二】中尾、堀口(波)出口、横山、大始良(池)

【評】1点を先行された池島は三回、山口の右前打、送りバント、尾上の四球などで二死一三塁から横山が右翼線へ二塁打して逆転した。その後両チーム走者を出しながらも適時打に欠けたが池島は六回に一死二塁から林田の左飛を左翼手が後に逸らして同点。大始良の左中間二塁打で再び逆転し、そのまま逃げ切った。

【波佐見】打安点

④中尾	3 2 0
⑧中川	4 2 1
⑤馬場	4 0 0
②3山口清	3 1 0
⑥田中	2 0 0
①長崎	3 0 0
⑨堀口	3 1 2
③2太田	3 1 0
⑦山口隆	3 0 0
28 7 3	

【池島】打安点

⑥出口	3 2 0
⑤下山	2 1 0
⑧野中	1 0 0
9橋川	2 0 0
⑦尾上	2 0 0
①横山	3 1 2
③2中田	3 1 0
⑨8小山	3 0 0
④林田	2 0 0
②林	1 0 0
3大始良	2 1 1
24 6 3	

日野、機動力いかにす

【一回戦】=第3試合：大橋= 振球犠盗失残併

中村クラブ	000 000 0	0	7	1	1	0	1	3	0
長崎日野自動車	000 200 X	2	1	5	2	4	1	6	0

【二】工藤(中)

【評】四回、二つの四死球とバントで一死二三塁のチャンスを迎えた日野は機動力を発揮。石本の三塁に大きくバウンドするゴロと三塁へ当たりそこねのゴロで2点を挙げた。

これを中村-井手のリレーでガッチリ守りきったが宮崎国体出場チームとしては打線にもう一つ迫力不足。

中村クラブも日野によく食い下がったが、四回表にスクイズ失敗で先制できなかったのが惜しかった。

【中村】打安点

⑧大石	2 0 0
⑤工藤	3 1 0
⑥佐藤	3 0 0
①清水	3 0 0
②藤田	1 0 0
H山口高	1 0 0
③鈴田	2 0 0
⑨北野	1 0 0
H9山口栄	1 0 0
⑦中村	2 0 0
④松尾	2 0 0
21 1 0	

【日野】打安点

⑥武次	3 0 0
⑤古里	2 0 0
⑬中村	3 0 0
③1井手	1 0 0
⑨有川	2 0 0
⑧川原	2 2 0
R8岩下	0 0 0
④石本	1 0 1
⑦筒井	1 0 0
7小田	2 1 1
②木村	1 0 0
2岡田	1 0 0
19 3 2	

【無線】打安点

⑧田村	3 1 1
④大塚	2 0 0
⑥富高	3 0 0
⑦岩井	3 0 0
②西村	2 0 0
2内川	0 0 0
H2折元	1 0 0
③池田	2 0 0
H3川上	0 0 0
⑨天達	3 1 0
①大石	2 1 0
H酒井	1 0 0
⑤入江	2 1 0
24 4 0	

美津島、ソツない攻め 長崎無線 5回の反撃、いま一步

【一回戦】=第4試合：大橋= 振球犠盗失残併

長崎無線電報局	000 010 0	1	4	2	0	3	1	4	0
美津島メッツ	100 100 X	2	3	2	2	2	0	3	0

【評】美津島が好守に元気いっばいのプレーを見せた。一回先頭の酒井が四球。捕逸で二進すると山城が遊越えタイムリー。四回には無死遊撃安打の神宮が二盗の際の捕手悪送球すると横瀬が中犠飛するソツのない攻撃ぶり。

これに対し長崎無線は五回田村の右中間安打が出て、1点を返したのみだった。

【美津島】打安点

④酒井	2 0 0
③阿比留	3 1 0
⑦山城	2 1 1
⑧神宮	3 1 0
⑤横瀬	2 0 1
⑨中山	2 1 0
①吉野	2 0 0
⑥田中	1 0 0
②原田	2 1 0
19 5 2	

伊藤がノーヒットノーラン 裏々終回到決勝点挙げる

【一回戦】=第5試合：大橋= 振球犠盗失残併

全田平	000 000 0	0	2	1	0	0	0	1	1
轟クラブ	000 000 1x	1	4	2	0	4	0	0	0

【二】田中(轟)

【評】轟クラブの伊東が素晴らしいピッチングを見せた。二回四球の走者を一人出ただけのノーヒットノーラン。ただ攻撃の方は再三走者を出して押しまくっていたが、なかなか得点に結びつかない。ようやく七回、いきなり二塁打した田中が三盗。川田四球の後、津田が前進守備の二塁後方にテキサス安打して決勝点を挙げた。

【田平】打安点

⑧米山	3 0 0
⑥近藤	3 0 0
⑤中村	3 0 0
①島本	3 0 0
③福井	1 0 0
⑦柴山	2 0 0
⑨橋口	2 0 0
9稲沢	0 0 0
②中倉	2 0 0
⑥阿比留	2 0 0
21 0 0	

【轟】打安点

④東川	3 1 0
②中山	3 0 0
⑧立岩	3 1 0
⑥道副	3 1 0
③田中	3 2 0
⑦川田	2 0 0
⑨津田	3 1 1
①伊東	2 1 0
⑤山口	1 0 0
23 7 1	

【上五島】打安点

⑤鉄川弘	3 1 1
⑦鉄川強	3 0 0
⑨川淵靖	3 0 0
③武田	3 0 0
⑧犬塚	1 0 0
4川淵恵	1 0 0
⑥太田	3 1 0
②鉄川好	2 0 0
①白岩	2 0 0
④8田口	2 0 0
23 2 1	

1点を守りきる ブローズ

【一回戦】=第6試合：大橋= 振球犠盗失残併

上五島ブローズ	001 000 0	1	6	1	0	1	0	2	0
福江ビクトリー	000 000 0	0	3	2	0	1	3	3	1

【二】中尾(ビ)

【評】両軍投手が好投したがブローズは三回に敵失と適時打で挙げた1点を守り逃げ切った。ブローズは三回、鉄川好が三塁ゴロ一塁悪送球の間に二進。二死後に鉄川弘が三塁右を抜いて唯一の得点を挙げた。

鉄川弘の打球は左翼手の浅い位置にゴロで抜けたが左翼手がやや逸らした間に挙げた得点だけにビクトリーにとっては悔やまれる。

【福江】打安点

⑧川口	3 0 0
⑤田上	2 0 0
②林	3 0 0
⑦本岡	2 0 0
⑨木場	2 0 0
4中尾	1 1 0
①平山	3 1 0
⑥浜村	2 0 0
③久保	2 0 0
3橋本	0 0 0
④坪内	1 0 0
H9野原	1 0 0
22 2 0	

親和、守備の乱れ突く長愛ク吉田の好投及ばず

【一回戦】=長商G:第1試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	000 001 0	1	1	0	1	0	0	6	0
長愛クラブ	000 000 0	0	3	0	0	1	1	3	0

【三】坂井(親)

【二】石田(親)



2回表一死三塁。親和小森の二塁
惜しくもアウト ゴロで三走の坂井がホームを突いたが寸前タッチアウト。捕手宮田。

【評】親和は二三回の長打で得点のチャンスを生んだが後続が長愛に吉田投手にうまくかわされて五回まで無得点。六回一死から古川が二塁の内野安打。続く竹山の三ゴロが一塁悪送球でこの間に古川が還ってやっと1点をもぎ取った。

長愛は親和の宮本投手のコーナーを突くうまい投球に散發3安打に終わった。

【親和】打安点

⑨宮添	2 0 0
H一ノ間	1 0 0
9村竹	1 0 0
⑧古川	3 1 0
⑤竹山	3 1 0
⑦坂井	3 1 0
③岩佐	3 0 0
④小森	2 0 0
H香田	1 0 0
4辻	0 0 0
②松尾	3 1 0
①宮本	2 1 0
⑥石田	3 3 0
27 8 0	

【長愛】打安点

⑨成富	3 0 0
⑥大駄	3 1 0
①吉田	3 1 0
④山下	3 0 0
②宮田	3 0 0
③辻	2 0 0
3岩本	1 0 0
⑤佐藤	2 0 0
⑧鈴木	2 1 0
⑦前田	2 0 0
24 4 0	

第29回県軟式野球選手権大会二日目は25日で三日目を迎え、この日は準々決勝4試合と準決勝2試合が長崎市営大橋球場で行なわれた。この結果、決勝は長崎日野自動車と親和銀行の間で行なわれることになった。決勝戦の日取りは未定。準決勝第1試合の長崎日野-奈良尾クラブは先行した日野を奈良尾が激しく追う形

となり、奈良尾は六回に同点に迫りついた。しかし延長八回大会規定による一死満塁制で日野は貴重な1点を挙げその裏の奈良尾の攻撃を無得点に抑え逃げ切った。同第2試合の親和銀行-轟クラブは親銀が二回、六回に挙げた得点を宮本の好投で守り切った。
(昭和54年11月26日付けの長崎新聞より抜粋)

【奈良尾】打安点

⑨川崎	2 0 0
④金崎	3 0 0
⑧森	3 0 0
⑥津田	3 1 0
②宮崎	3 0 0
①平田	3 1 0
③浜山	3 0 0
⑦松竹	1 0 0
⑤小柳	1 0 0
H金丸	1 0 0
R浦口	0 0 0
5本村	0 0 0
23 2 0	

奈良尾、幸運な1点 池島に痛い守備の乱れ

【準々決勝】=第1試合= 振球犠盗失残併

奈良尾クラブ	000 001 0	1	4	1	1	0	0	3	0
池島鉱業所	000 000 0	0	3	1	1	0	1	4	0

【三】横山
小山

【評】池島は左腕横山の好投で前年度優勝の奈良尾に互角以上の戦いをしたが、エラーが命取りとなった。

六回四球の無死一塁に投前バントを二塁に悪送球したのがつまづきの始め。バントで二三塁に進められ、せっかくスクイズを見破って三塁走者を三本間にはさみながら、捕手が深追いして生かし飛び出した二塁走者を刺そうとした送球を遊撃手が落球して、三塁走者の生還を許してしまい、これが決勝点となってしまった。

【池島】打安点

⑤下山	3 0 0
④林田	3 1 0
⑧野中	3 0 0
⑥出口	3 1 0
①横山	3 1 0
⑦小山	3 1 0
②中田	2 0 0
⑨橋川	1 0 0
③須藤	2 0 0
23 4 0	

光る井手の好投 長崎日野 "1安打の勝利、

【準々決勝】=第2試合= 振球犠盗失残併

美津島メッツ	000 000 0	0	2	0	1	0	2	2	0
長崎日野自動車	001 000 X	1	2	2	0	3	0	3	1

【二】神宮

【評】長崎日野は中村に代わってマウンドを踏んだ井手が完封勝ちしたのは収穫だったが、打力不振は重症のようだ。

得点は三回一死後、内野安打の武次が二盗。筒井の一塁ゴロをベースカバーに入った二塁手が触塁しそこねる間に武次が好走し本塁を陥れた1点だけ。

井手の幻の二塁打がありはしたが、記録上、放った安打は1本という寂しさだった。

【美津島】打安点

④酒井	3 1 0
③阿比留	2 1 0
⑦山城	3 0 0
⑧神宮	3 1 0
⑤横瀬	3 1 0
⑨中山	2 0 0
①吉野	2 0 0
⑥田中	2 0 0
②原田	2 0 0
22 4 0	

【日野】打安点

⑥武次	2 1 0
⑤古里	1 0 0
5筒井	2 0 0
③中村	3 0 0
①井手	3 0 0
⑨有川	2 0 0
⑦川良	2 0 0
④石本	2 0 0
②岡田	2 0 0
⑧岩下	1 0 0
20 1 0	

伊東が2安打完封

轟ク

【準々決勝】=第3試合= 振球犠盗失残併

上五島ブローズ	000 000 0	0	3	0	0	1	1	2	0
轟クラブ	010 000 X	1	2	4	0	0	0	5	0

【評】両チームの投手が好投して淡々とした早いテンポの試合運び。ブローズは二回の失策が最後まで響き惜敗した。

轟クラブは二回、田中が四球で出塁し続く立岩の遊ゴロを一塁で刺したものの三塁へ向かう田中を見て一塁手が三塁へ送球。これが悪送球となりこの間に田中が生還して唯一の得点を挙げた。

守っても伊東康が散発2安打に抑えて危なげないピッチングだった。

【上五島】打安点

⑤ 鉄川弘	3	1	0
⑧ 犬塚	1	0	0
H8 川淵恵	2	0	0
① 白岩	3	1	0
③ 武田	3	0	0
⑨ 川淵靖	3	0	0
⑥ 太田	2	0	0
② 鉄川好	2	0	0
④ 田口	2	0	0
⑦ 鉄川強	2	0	0
			23 2 0

【轟】打安点

⑦ 浜崎	2	1	0
② 中山	3	0	0
④ 東川	3	0	0
⑥ 道副	3	1	0
③ 田中	1	0	0
⑧ 立岩	2	0	0
⑨ 津田	2	0	0
① 伊東康	2	0	0
⑤ 山口	2	0	0
			20 2 0

【親和】打安点

④ 久住呂	3	0	0
⑧ 古川	2	0	0
⑤ 竹山	3	2	0
③ 坂井	4	2	3
⑨ 一ノ間	3	0	0
9 村竹	1	0	0
⑦ 宮添	2	0	0
H3 岩佐	2	0	0
② 松尾	3	2	0
① 高藤	2	0	0
⑥ 石田	2	1	1
6 岩崎	0	0	0
			27 7 4

親銀打線が爆発 パワーズを突き放す

【準々決勝】=第4試合= 振球犠盗失残併

親和銀行	210 000 1	4	0	3	3	2	0	8	0
壱岐パワーズ	000 000 1	1	9	0	1	0	2	4	0

【二】松尾、竹山、坂井、市岡

【評】前日の試合で鳴りを潜めていた親銀の打線が前半に爆発、追いつがるパワーズを高藤の力投で振り切った。親銀は初回、久住呂の死球、竹山の右前打と盗塁で一死二三塁とし坂井が一二塁間を抜いて2点を先行。さらに二回も松尾の左越え二塁打を石田の右前適時打で還し試合を優位に進めた。

中盤から後半にかけてパワーズは押し気味に試合を進め、六回は丸尾の安打を足場に市岡の右越え二塁打で1点を返したが、親銀も最終回に竹山、坂井の連続二塁打でパワーズを突き放した。

【壱岐】打安点

⑥ 久田	3	0	0
⑧ 西正	3	1	0
① 丸尾	3	1	0
③ 真鍋	3	0	0
⑨ 市岡	3	1	1
② 加藤	3	1	0
⑤ 吉木	2	0	0
④ 伊佐藤	2	1	0
4 西文	1	0	0
⑦ 米倉	2	1	0
			25 6 1

長崎日野、逃げ切る

延長8回 奈良尾の反撃断つ

【準決勝】=第5試合= 振球犠盗失残併

長崎日野自動車	110 000 01	3	6	0	1	1	2	6	0
奈良尾クラブ	000 002 00	2	1	1	2	0	1	4	1

【三】金丸【二】岡田、岩下 (延長8回は一死満塁制)

【評】長崎日野が一二回に挙げた2点を中村の力投で守り逃げ切るとみえたが奈良尾はよく粘り延長戦にもつれ込んだ。一死満塁制による延長八回、日野は中村が右犠飛を打ち上げ貴重な1点。奈良尾は金丸以下が凡退して万事休した。

日野は初回、武次の右前打を古里が送り中村、井手が連安打して1点。二回には岡田、岩下の連続二塁打で1点を追加した。

しかしその後は奈良尾の平田投手を打ちあぐんでいた。

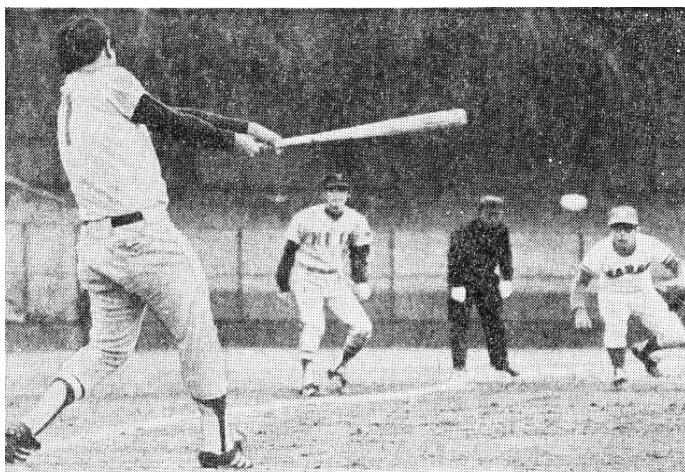
追いつがる奈良尾は六回に金崎と森を一二塁に置いて、金丸が右翼頭上を越す大きな三塁打で二者を還して同点に追いついた。しかし次打者の津田がスクイズを見逃して、金丸は三本間にはさまれ勝ち越しのチャンスを惜しくもつぶした。

【日野】打安点

⑥ 武次	4	2	0
⑤ 古里	3	0	0
① 中村	3	1	0
③ 井手	3	1	1
⑨ 有川	3	1	0
⑦ 川良	2	0	0
7 小田	1	0	0
④ 石本	3	1	0
② 岡田	3	1	0
⑧ 岩下	3	1	1
			28 8 2

【奈良尾】打安点

⑨ 川崎	2	0	0
④ 金崎	3	2	0
⑧ 森	2	0	0
③ 金丸	3	2	2
⑥ 津田	3	0	0
② 宮崎	3	1	0
① 平田	2	0	0
⑤ 本村	1	0	0
H5 浜山	2	1	0
⑦ 松竹	1	0	0
H9 浦口	2	0	0
			24 6 2



先取点

1 回表日野一死一三塁に走者をおいて、井手が三遊間へ先制の適時打を放つ

親銀の“足攻、さえる 宮本力投、轟クを完封

【準決勝】＝第6試合＝ 振球犠盗失残併

親和銀行	010 001 0	2	1	3	1	2	2	3	0
轟クラブ	000 000 0	0	1	0	0	3	0	4	1

【二】田中 坂井

【評】両チームの投手が好投して見ごたえのある一戦だったが、親銀がチャンスを確実にものにし宮本が要所を抑えて逃げ切った。親銀は二回に坂井の左前打、香田の死球で無死一二塁とし坂井が三盗に成功。一死後、松尾の打球は緩い投ゴロだったが坂井が三塁から猛然と本塁を駆け抜け貴重な先制点を挙げた。

轟クラブは四回、中山が敵失で出塁し二盗。一死後に道副の三ゴロで二塁を飛び出した中山が離塁しすぎて刺された。この後に田中の左中間二塁打が出ただけに惜まれる。親銀は六回二死二塁に坂井の二塁打でダメ押しした。

【親和】打安点	【轟】打安点
④久住 呂 3 1 0	⑦浜崎 3 0 0
⑧古川 2 0 0	②中山 3 0 0
⑤竹山 2 0 0	④東川 3 1 0
⑦坂井 3 2 1	⑥道副 3 0 0
③香田 1 0 0	③田中 3 1 0
3岩佐 1 0 0	⑧立岩 2 0 0
⑨一ノ間 2 0 0	H津田 1 0 0
9宮添 1 0 0	⑨川田 3 0 0
②松尾 3 0 1	①伊東康 2 0 0
①宮本 3 0 0	1伊東章 0 0 0
⑥石田 1 0 0	⑤山口 2 1 0
22 3 2	25 3 0

長崎日野 1点差の初優勝

白熱の投手戦

【決勝戦】12/2 佐世保野球場 振球犠盗失残併

親和銀行	000 000 000	0	1	4	0	0	0	5	0
長崎日野自動車	000 001 00X	1	3	0	0	1	0	4	0

親和 惜しい1回表の逸機

順延していた決勝戦は好天に恵まれた12月2日午後1時より佐世保野球場であり、長崎日野自動車が初優勝した。

長崎日野は最小得点の1点を中村投手が守り切った。六回裏の日野は親銀宮本投手の球が真ん中に集り出し、一死後に武次が中前打しすかさず二盗(写真右)。筒井の幸運な右前テキサスヒットで生還して決勝点を挙げた。日野の中村は鋭く曲がるカーブに威力があり親和の強力打線を僅か2安打に完封した。

親和銀行は一回の逸機が惜まれる。先頭の久住呂が投手強襲安打で出たが送りバントが三飛でチャンスを潰した。親和の宮本投手も多彩な変化球で好投し、見ごたえのある投手戦だった。



6回ウラの長崎日野自動車は一死後に武次が中前打しすかさず二盗に成功。得点のきっかけをつかむ。

【親和】打安点	【日野】打安点
④久住 呂 4 1 0	⑥武次 4 1 0
⑧古川 2 0 0	⑤筒井 4 1 1
8宮添 2 1 0	①中村 3 0 0
⑤竹山 4 0 0	③井手 3 3 0
⑦坂井 3 0 0	⑨有川 3 0 0
③岩佐 3 0 0	⑦小田 3 0 0
⑨村竹 2 0 0	④石本 3 0 0
②松尾 3 0 0	②岡田 3 0 0
①宮本 3 0 0	⑧岩下 3 0 0
⑥石田 2 0 0	
28 2 0	29 5 1



渡辺県軟式野球連盟理事長から優勝旗を受ける長崎日野自動車の井手選手。中央(10番)は中村郁郎投手。



初優勝を飾った長崎日野自動車チーム (昭和54年12月3日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

天皇賜杯第34回全日本軟式野球大会

8/25～・栃木県鹿沼市ほか 52チーム参加

- 【二】 親和銀行 0-2 本田技研鈴鹿(三重)

第34回宮崎国体軟式野球競技

10/15～・都城市、日向市ほか 28チーム参加

- 【一】 長崎日野自動車 4-1 福井市役所(福井)
- 【二】 " 2-0 東京三洋電機(群馬)
- 【準々】 " 0-6 千葉相互銀行(千葉)

☆国体初出場でベスト8☆

第1回西日本軟式野球大会〈1部〉

5/26～・京都府 25チーム参加

- 【一】 長崎無線電報局 3-1 積水ハウス(滋賀)
- 【二】 " 2-3 愛宕クラブ(愛媛)

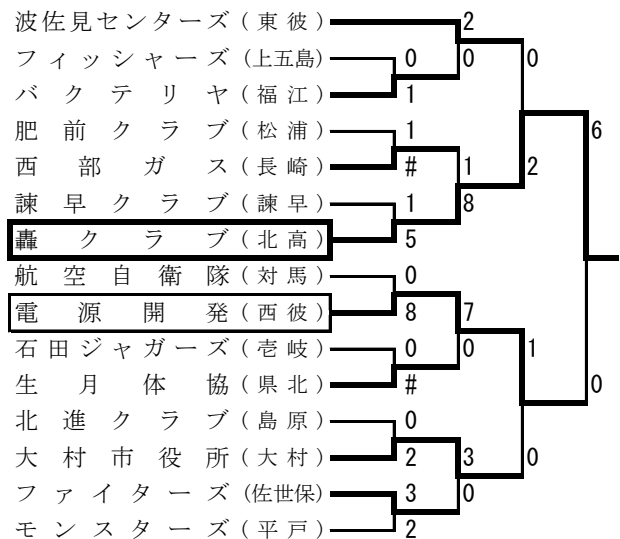
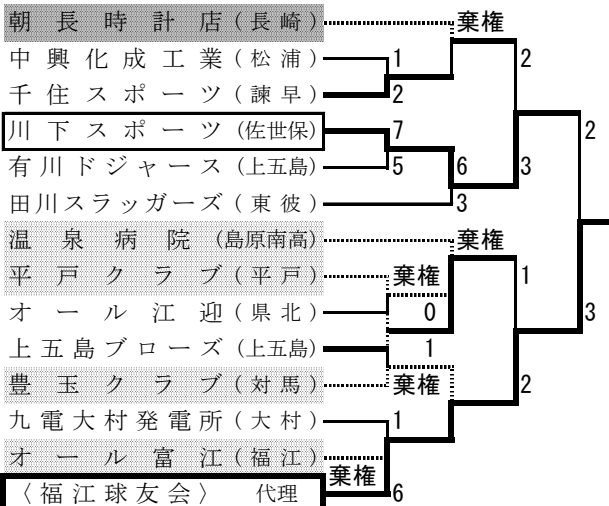
第1回西日本軟式野球大会〈2部〉

6/2～・岡山県 25チーム参加

- 【一】 オール富江 5-4 豊田クラブ(奈良)
- 【二】 " 14-5 加茂町農協(島根)
- 【準々】 " 1-12 一宮町役場(兵庫)

高松宮賜杯第23回全日本1部・県予選(6/30・上五島)

高松宮賜杯第23回全日本2部・県予選(6/30・大村)



【上記の組み合わせと結果についての説明】

6月30日から上五島で開催予定だったが雨天のため7月7日に順延。ところが上記のとおり5チームが順延日程を棄権したことによりオール江迎が2試合不戦勝となるためにDブロックのブローズと初戦を戦う。またオール富江の棄権により福江球友会が代理出場して優勝するという珍現象もおきている。

だが福江球友会は九州ブロック大会で敗退している。

高松宮賜杯第23回全日本軟式野球大会〈2部〉

9/9～・東京都八王子市ほか 16チーム参加

- 【一】 轟クラブ 3-0 日本石油加工(東京)
- 【二】 " 1-0 石田病院(北海道)
- 【準】 " 2-4 広島大州電報電話局(広島)

第31回県民体育大会 (11/3～・諫早)

第2日が雨天のため、4チーム優勝

長崎 ・ 諫早 ・ 福江 ・ 平戸

高松宮賜杯第23回全日本2部で
ベスト4の轟クラブのメンバー

監督	佐藤 均蔵	東川 静夫
選手	川田 順一	峰松 俊蔵
道副	喜文	道副 直
	山口 義春	田中 玉留
	増山 哲郎	松尾 高志
	久世 文彦	浜崎 茂
	伊東 章義	立岩 広明
	伊東 康隆	津田 良信
	中山 勝	